

京環セ 22号

平成18年5月30日

2006年

京大植物園を考える会  
大石高典 様

京エコロジーセンター  
(京都市環境保全活動センター)  
館長 高月 紘



平成18年度環境保全活動支援事業に対する  
貴団体提案事業の採択決定と助成金について (決定通知)

時下、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

このたび、貴団体から応募の「平成18年度環境保全活動支援事業」に関わる提案事業が助成金交付対象事業に決定しましたので、下記により通知します。

記

1 助成金内定額 100,000円

2 留意事項

- ・活動は、実施期間内(平成18年6月1日～平成19年2月28日)に実施してください。
- ・助成要件、助成対象活動及び助成対象経費等は募集要項で再度確認ください。
- ・助成金対象事業の終了後、速やかに活動完了報告書(収支決算報告書含む)を提出してください。
- ・経費に関わる領収書は、費目ごとに収支決算報告書に添付してください。助成対象外の経費が含まれている場合は、助成金内定額を変更します。
- ・助成金は、活動完了報告書と収支決算報告書を精査し、請求書に基づき、指定金融機関に支払います。(郵便局不可)
- ・活動報告/採択団体交流会(平成19年3月予定)には出席することとします。
- ・同封の報告書及び請求書は、提出日まで保管してください。

京都市伏見区深草池ノ内町13番地  
京エコロジーセンター

(担当: 事業課 長谷川)

Tel075-641-0911 Fax075-641-0912

平成 18 年度環境保全活動支援事業  
活動完了報告書

平成 19 年 2 月 28 日

京エコロジーセンター  
館長 高月 紘 様

団体名 京大植物園を考える会  
代表者 川那部 浩哉 印  
住 所 京都市左京区田中里ノ前 21  
石川ビル 305 市民環境研究所内  
TEL&FAX 075-771-4832

助成金対象事業が完了しましたので、下記によりその概要を報告し、添付にて詳細を報告します。

記

活動名称	地域の中の大学植物園—植物園を活用した環境教育連続市民講座
活動概要(簡潔に)	1. 環境教育市民講座 (2006年6月～2007年2月、月1回) 2. 京大植物園・総合博物館 ジョイント・ワークショップ 「植物採集と植物園」— 生きている“標本”の存在意義を考える — (2006年11月23日 木・祝) 3. 『ゆくのき通信』の発行 (2006年11月) 4. 日本環境教育学会における発表 (2006年8月)
実施期間(日)	(平成18年(2006)6月1日～平成19年2月28日) 平成 1 8 年 6 月 1 日～平成 1 9 年 2 月 2 8 日
主な実施場所	京都大学理学部植物園
参加人数	400人

(記入上の注意)

1. この書式には概要で記入し、添付にて詳細を報告してください。
2. ※は記入しないでください
3. 参加人数は助成金対象事業の延人数を記入し、詳細報告内にとり組ごとの参加人数を記入してください。
4. 報告書提出の締切りは、助成金対象事業完了後の 10 日以内でかつ平成 19 年 3 月 10 日とします。厳守ください。

平成 18 年度 京エコロジーセンター 環境保全活動支援事業  
京大植物園を考える会「大学植物園を活用した環境教育連続市民講座」  
—活動報告—

【活動の概要】

1. 環境教育市民講座（2006年6月～2007年2月、月1回）  
実施場所：京都大学理学研究科附属植物園及び周辺緑地（京都大学北部構内、吉田山）
2. 京大植物園・総合博物館 ジョイント・ワークショップ  
「植物採集と植物園」— 生きている“標本”の存在意義を考える —  
（2006年11月23日 木・祝）  
内容：植物園観察会、博物館見学、懇談会「植物採集と植物園」  
実施場所：京都大学理学研究科附属植物園、京都大学総合博物館
3. 『ゆくのき通信』の発行（2006年11月）
4. 日本環境教育学会における発表（2006年8月）  
タイトル「大学植物園が学内および地域社会において果たす役割  
～『京大植物園を考える会』の実践から～」

【活動の詳細】

1. 環境教育市民講座は、2006年6月から2007年2月まで、京大植物園を主な実施場所とし、野外観察会の形式で毎月一回行った（資料1、2、3参照）。毎月、1名ないし2名の講師が、事前に予告したテーマにそって解説を行った。講師は、京大植物園を利用する研究者および大学院生が担当した。学内だけでなく、外部の研究機関や民間の研究者も招聘した。講座のテーマはシダ類やコケ類等を含めた園内の植物やきのこ類を扱ったものが中心であった。手にとりて観察することができて親しみやすいドングリや、京大植物園近くの哲学の道にも生息するホタルの食草であるイヌビワなどを題材とし、植物の専門知識がない人にも入りやすいものにすることができた。また、普段目に留めることが少ないコケ類、シダ類、きのこもテーマに設定した。参加者からは、「今まで知らなかった世界をみる事ができた」といった感想を聞くことができた。

2006年8月の『植物園と吉田山』では、生態植物園として管理されてきた京大植物園の多様な植生景観を念頭に、今出川通りをはさんで京大植物園のすぐ南にある吉田山（京都市吉田山公園）の植生を観察した。地域の在来植生や、人間生活の変遷による里山の利用の変化について講師から解説を受けた。参加者の間でも、吉田山の今昔や、里山管理に関する議論が行われた。

このほか、2006年10月には、花折断層を含む京大北部キャンパスの地形見学を行った。花折断層については地域住民の関心も強く、参加者の感想では、「実際に歩いて見学することにより断層地形を体感できた」と好評であった。

また、2006年9月の『森で語ろう』では、講師が一方的に説明するだけでなく、参加者が植物園や身近な自然について目を向け、発言する場を設けた。「京大植物園のどのよう

なところが好きか」、「植物園で発見したこと」などの簡単な質問を講師が投げかけ、参加者は自由に意見を述べた。発言は植物園内の自然にとどまらず、参加者の居住地周辺の自然や、京大植物園の将来像についても話はおよんだ。一連の討論からは、植物園観察会の継続により、参加者の身近な自然や地域社会に対する意識や観察力が高まったことが伺えた。

各回の参加者は平均約 40 人、総計約 400 人であった。参加者は学外からの一般市民が約 7 割を占めたほか、京大の学生および教職員も参加した。このことより、大学植物園における自然観察会形式の市民講座が、大学構成員と市民との交流の場として機能したと考えられる。

2. 2006 年 11 月には京都大学学園祭にあわせて、「京大植物園・総合博物館 ジョイント・ワークショップ『植物採集と植物園』— 生きている“標本”の存在意義を考える —」を開催した（資料 4）。元京大理学部植物学教室講師で京大植物園に深くかかわりのある村田源氏と、前京大博物館館長の河野昭一氏が講師を務めた。市民および学生・教職員ら合計 66 人が参加した。午前中は、村田氏による園の沿革や植物についての解説を聞きながら園内を観察した。午後は、京大博物館にて河野氏の解説により収蔵庫の植物標本を見学した。その後、総合博物館セミナー室において、「植物採集と植物園」と題した懇談会を行った。村田氏、河野氏がそれぞれ、植物標本にまつわる話や、植物園の研究フィールドとしての意義について講演した後、コメンテーターおよび参加者を交えて、さらに広い視点で植物園の果たす役割について議論した。

3. 植物園に関わる様々な人たちの交流の場や、京大植物園を利用した研究成果を広く市民に発表する場を設ける目的で、京大植物園の情報誌『ゆくのき通信』創刊号を 2006 年 11 月に発行した（資料 5）。通信の発行は今後、植物園を中心とした地域文化形成のための基礎となっていくものとする。

4. 2003 年から当会が継続している京大植物園における一連の自然観察会について、2006 年 8 月に開催された日本環境教育学会大会にて「大学植物園が学内および地域社会において果たす役割～『京大植物園を考える会』の実践から～」のタイトルで発表した（資料 6）。大学植物園での有志による自然観察会の継続が、地域住民と大学構成員の交流の場および、身近な自然に目を向ける機会になっていることについて報告した。観察会の運営について環境教育の専門家からコメントやアドバイスをもらったほか、有志による観察会の継続について会場や座長から高い評価を受けた。

なお、参考資料として、京大植物園が取り上げられた新聞記事（資料 7）および、京大植物園で収録された NHK 新日曜美術館「三橋節子特集」（2007 年 2 月 3 日放映）の DVD（資料 8）を添付した。

【添付資料】

- 1) 表 市民講座の概要
- 2) 市民講座の報告
  - 1) 第37回～第47回 参加者の感想、講師（ガイド）のレポート等
  - 2) 配付資料（40回、43回、45回、47回）
  - 3) 案内チラシ&葉書
- 3) 京都大学生協同組合教職員情報誌 連載「京大植物園観察会」
  - 1) 教職員情報誌 No.52 ～ No.60
  - 2) 京大生協HP掲載 No.3 ～ No.10
- 4) 「京大植物園・総合博物館 ジョイント・ワークショップ」資料等
  - 1) ポスター（カラー）
  - 2) 配布チラシ
  - 3) フリーマーケット（チラシ、案内用ポスター等）
  - 4) 博物館見学報告
  - 5) 懇談会資料
- 5) ゆくのき通信 創刊号
- 6) 2006年日本環境教育学会 発表資料
- 7) 関連記事
  - No.1 2006年6月15日 京都大学HPトピックス
  - No.2 2006年7月4日 京都新聞
  - No.3 2006年7月4日 京都新聞電子版
  - No.4 2006年7月25日 中日新聞
  - No.5 2006年9月15日 毎日新聞（夕刊）
  - No.6 2006年12月1日 京都大学新聞
  - No.7 2006年12月21日 京都新聞（夕刊）
- 8) DVD「永別の自画像 日本画家・三橋節子」  
(NHK 新日曜新美術館 2007年2月4日（日）放映)